◎「ウクライナ支援」 News Letter（９）

２０２２年１１月２４日
ミッション・宣教の声
黒田　禎一郎

愛する皆様へ

しばらく支援メールが出せず失礼いたしました。いつもウクラナイの聖徒と教会（集会）にためにお祈りくださり、感謝とお礼を申し上げます。ご存じのようにロシア軍がウクライナに侵攻し、今日で丁度９ヶ月となりました。戦争停止の出口が見えない状況で、事態は悪化するばかりです。

ウクライナは現在、秋雨による「ぬかるみ期」に入り、車両の運行が非常に困難な時期に入りました。ウクライナ大統領府長官は、ロシア軍がウクライナ各地のエネルギー施設を攻撃していると発表しました。その結果、エネルギー施設の「約半分」が使用停止となり、さらに昨日からはウクライナ全土で停電状態となりました。首都キーウの市長は、「キーウ全域で水道の供給も停止した。」と発表しました。大切な電気と水道が止まり、国民はさらに苦難下に置かれました。最悪なのは医療関係です。病院はもはや機能できない状況となりました。キーウでは１７日に初雪が降りましたが、これから厳冬期（１月～２月）に入れば、氷点下２０度以下に冷え込みます。降雪や厳しい寒さが戦闘に影響を及ぼしますが、何よりも人々にさらに大きな影響が及ぶものと思われます。

悲しいニュースですが、９月末にロシアがウクライナの東・南部４州でウクライナ人の子どもを、「キャンプ」や「リハビリ」という名目でロシアに強制されたことです。一例として挙げるならば、キャンプにはエネルホルダや周辺の村から約５００人が参加し、バス１０台で出発。１０月１５日から６日間という説明でしたが、１週間後に当局から「子どもは当面戻らない。ロシアの学校に通わせるので衣類を送るように」と通告がありました。親には子どもを取り戻す手段はなく、大きな無力感に陥っています。ゼレンスキー大統領は「特定されているだけで子ども数は１万１千人」と語りました。子どもの強制連行には、幼いうちにロシアの価値観を植え付け、ウクライナ人のアイデンティティーを喪失させる狙いがあるようです。

実に恐ろしいことが起こっています。私たちができることは限られています。そこで、皆様に次のことをお願いしたく願います。

◎「祈りの課題」

１．全能の主である神に「とりなしの祈り」をする
　　戦争の速やかな停止、生命が守られ、困難下で神の守りがありますように

２．できるかぎりの経済支援ができますように。
　　私たちの力が少しでも、彼らの力となるならば幸いです。

◎ 次は日本からの支援献金による「ギフト」（左：各「ギフト」ボックス、右：車で搬送）と、その作業スタッフの兄弟姉妹です。
（この情報はルーマニア・ブカレストからです）

※ この News Letter は不定期発行で、メール送信しています。
皆様のお祈りとご支援に感謝します。